
スイカ割り

しん/

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スイカ割り

【Nコード】

N6918V

【作者名】

しん／

【あらすじ】

とある村の話をしよう。都会から遠く離れ、山と海によって隔離された村の、禁忌の話を……。

その村は少し変わっていた。目の前は海、背後は山に挟まれたその小さな村では、スイカ割りには禁忌とされてきたのだ。

そもそも何故、そのように戒められるようになったのか。その原因となったのが、村で起きた一つのイジメ事件だ。

いつの時代もイジメが絶える事はない。その頃の村も例外ではなかった。

小さな村には小さな学校があった。下は小学一年から上は中学二年までと、バラバラな学年と少ない人数から、クラスは一つしかなかった。

そんな運命共同体とも呼ぶべき集団の中でも、それはあった。標的となったのは、小学校低学年の男女二人。

クラス一番の年上である中学二年の男子が、その二人をからかったのが全ての始まりだった。日に日にイジメは悪質なものになり、男の子は左のこめかみに消えない傷を負った。また、イジメっ子側に加わってくる生徒もいた。

それでも二人は、決してイジメに屈しようとはしなかった。イジメられていることを、口外しようともしなかった。それは子供なりの意地だったのかもしれない。

ある日、二人はイジメっ子達に連れられ、海へやって来た。風呂敷に包まれたスイカと縄を、一メートルくらいの長い棒に引っ掛け

て。皆、水着に着替え、海に入っていく。去り際にイジメっ子達のリーダーらしき一人が、取り残されたように棒立ちしていた二人に、「遊んでいいぞ」と声をかけた。

二人はその言葉の意味を理解しかねた。「今まで彼らに散々イジメられ続けたのに……」という想いが、二人の胸中では渦巻く。

しかしそんな疑念は、まだ幼い二人の好奇心に塗り潰されてしまった。二人は手を取り合い、陽が暮れ始めるまで砂浜で砂まみれになった。

そして陽が暮れ始めた頃、あのリーダーが、「スイカ割りするぞー！」と声を張り上げた。イジメっ子達はわらわらと集まり、一応二人もそれに合わせる事にした。

全員が集まった事を確認したリーダーは、続けて二人を指差し、「お前らの協力が必要だ」と言った。

質問する暇もなく、二人は羽交い締めになれ、引き離された。男の子の方は目隠しをさせられ、何やら重たい、棒のような物を持たされた。

リーダーの声が聞こえる。男の子はこれからスイカ割りの割る役をやるらしい。

当然、男の子は喜んだ。喜ぶ男の子は、昨日まで彼らにイジメられていた事など微塵も考えなかった。それ以上に嬉しかったから。「準備が出来た」との合図を聞き、棒を握り直す男の子の横顔を汗が走る。

「右、右」、「左い」、「あー、行きすぎ！」とイジメっ子だった彼らの声援を頼りによたよたと歩を進め、その声援がピークに達した所で棒を思い切り振り下ろす。

——グシャアッ。

彼らの歓声が聞こえる。それに導かれるように、男の子は目隠しを外そうと頭の後ろに手を回し、気が付いた。

『アノ子ハドコ行ッタノ？』

慌てて目隠しを取り、男の子の目に写ったのは——。

——紅。

「ふむ。どれ、貸してみ」

彼は遺書のようなそれが書かれた大学ノートを受け取り、読み始めて数秒としない内にうんうんと唸り出した。

「なんだこりゃ？ 村の話で始まったかと思えば、終いにや『殺される』の連呼……ホトケはヤクでもやってたのか？」

そうボヤきながら、彼はノートをパラパラとめくって行き、最後のページに差し掛かった。

「ん？」

「おや？ これは……」

そこには短く、一言だけ記されていた。私はそれを読み上げようと、口を開け――

「許サナイ……」

この世のものとは思えない声が囁いた。当然、彼の声でもなければ、私の声でもない。

「誰だ！？」

彼は立ち上がり、辺りを見回す。私もそれに続き、首を傾げる。

「おかしい……」

今この場にいるのは、刑事の私と、警部の彼と、このノートの持ち主であろう、左のこめかみに古傷のある男性――だった物だけだと言っのに。

（後書き）

夜なかなか寝付けずに、思わず書いてしまった作品です。後悔はしていません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6918v/>

スイカ割り

2011年8月11日03時29分発行